

令和7年度

北九州市サステナビリティボンド (SDGs未来債)

インパクトレポート・ハンドブック



「世界をリードするサステナブルシティ」
の実現を目指して
北九州市の取組

「世界をリードするサステナブルシティ」の実現を目指して ～いつの時代も多くの困難を乗り越え、最先端を走り抜けてきたまち～

時代の最前線で常に新しいことに挑戦し、
多くの困難を乗り越えてきたドラマの豊富なまち



1889

門司港が特別輸出港に指定



1901

官営 八幡製鐵所



1920

東洋陶器



1925

安川電機制作所



1963

北九州市発足



2006

新北九州空港開港

1997【環境産業】
エコタウンプロジェクト
⇒環境リサイクル産業集積

2001【新産業】
学術研究都市
⇒研究開発・産学連携拠点

2011【洋上風力発電】
グリーンエネルギーポート
ひびき事業

貿易の拠点となる

『ものづくりのまち』として
日本の高度成長期をけん引

当時、世界で類を見ない五市対等合併により、
九州初の『百万都市』『政令指定都市』として、
北九州市が誕生

1800

1900

1950

2000

新たなドラマ
のスタート

・激甚な公害が発生「七色の煙」や「死の海」と評された



- ・「オイルショック後の鉄冷え」
- ・「怖いまちのイメージ」
- ・「空路にシフトする時代への対応の遅れ」

産学官民が連携して
公害を克服



「世界をリードするサステナブルシティ」の実現を目指して

2011	環境未来都市に選定
2017	第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞
2018	OECDより「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定(アジア地域初)
2018	国より「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」に選定
2022	脱炭素先行地域に選定

「世界をリードするサステナブルシティ」の実現を目指して ～これまでの北九州市における評価～

- 2018年4月に、OECDよりアジア地域では初めて「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定され、同年6月には国より「SDGs未来都市」に選定されるなど、国内外で高い評価をいただいています

～「SDGs」とは～

- 2015年9月の国連サミットで、すべての加盟国(193カ国)が採択した国際目標
- 発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む
- 2030年までの目標であり、17の目標(ゴール)の達成を目指している



～ 北九州市と「SDGs」～

- 本市は以下のとおり、国内外で高い評価をいただいています

2017年12月

- 第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞
 - 280団体以上が応募し、12団体が受賞(自治体は本市と下川町のみ)

2018年4月

- OECDより「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定
 - アジア地域で初めて選定

2018年6月

- 国より「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定
 - 29都市選定(うちモデル事業10都市)

2018年8月

- 国の「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」の会長に北九州市長が就任

「世界をリードするサステナブルシティ」の実現を目指して ～産官学民のコラボレーションによる都市変革プロジェクト～

- 2026年1月に、新たな都市像「Next Horizon Sustainable City」を策定し、3つのプロジェクトを実施しています。

Retalabo リタラボ

Retalabo(リタラボ)

- 利他的で、再生的で、かつ変革主体(transformative agent)としての実践ラボを設立します
- 市民と産業界・行政・学术界との協働を通じて、複雑かつ困難な課題(wicked problem)を解決するためのプロセスを構築します
- 戦略的デザインによって世界を先導する取り組みを追求し、その経験を世界へ共有します



Destination Project 目的地プロジェクト

Destination Project(目的地プロジェクト)

- GDS-Index(Global Destination Sustainability Index)などを活用しサステナビリティに関心をもつ人々が「一生に一度は訪れたい」「何度も繰り返し訪れたい」と思う「目的地」となることを目指します



Matsuri Project まつりプロジェクト

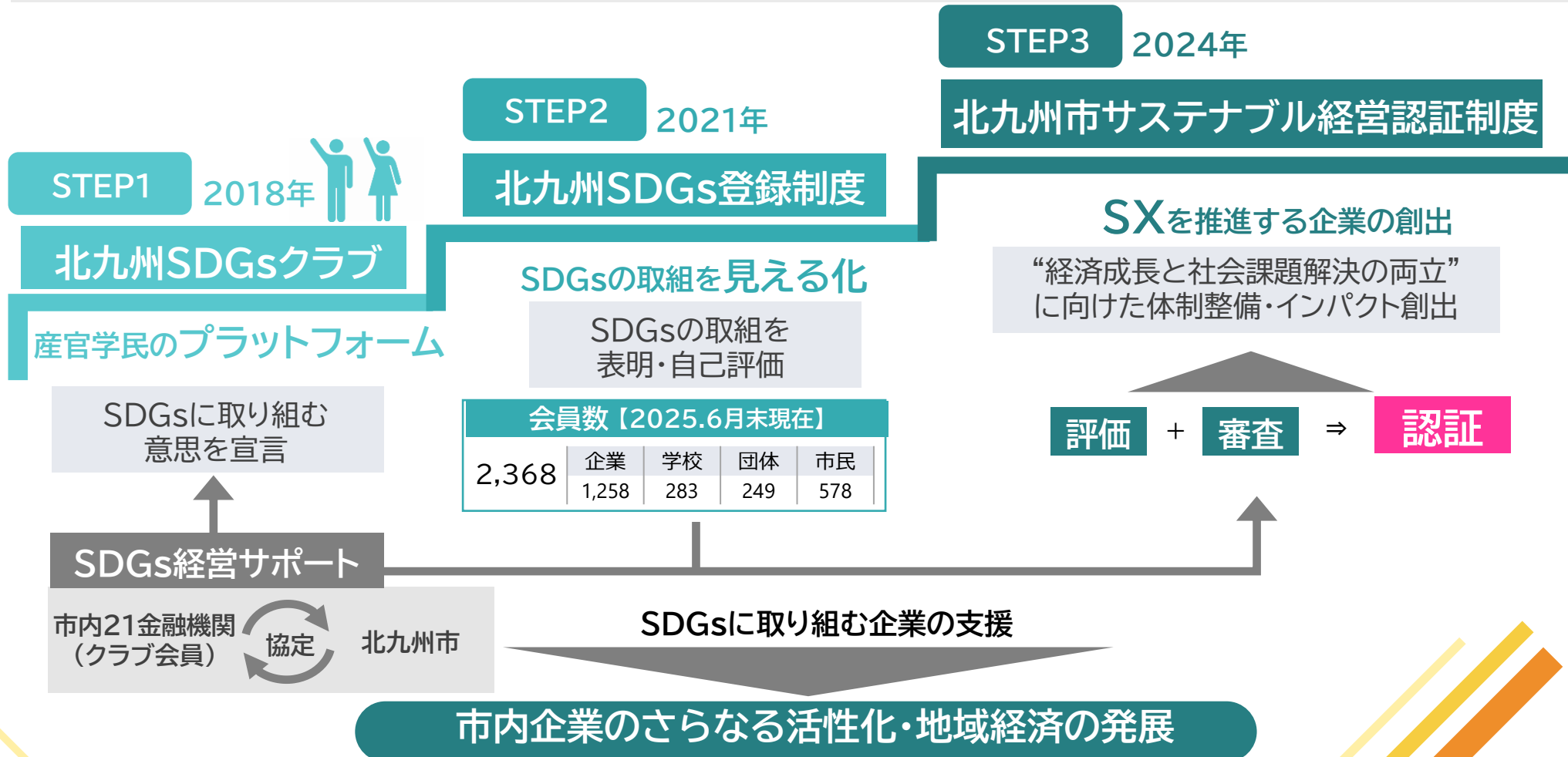
Matsuri Project(まつりプロジェクト)

- 多様な分野を横断して取り組むことで市民の日常生活に根ざしたサステナビリティを活性化し、より持続可能な都市に向けた市民の熱意と機運を喚起します



「世界をリードするサステナブルシティ」の実現を目指して ～サステナブル経営による市内企業の活性化～

- 2020年1月には、北九州SDGsクラブ会員である金融機関と、「SDGsの達成」という共通の目標のもと、地元企業のSDGsの取組を支援するため、協定を締結しました
- 2021年8月には、企業のSDGsの取組を「見える化」するため、「北九州SDGs登録制度」を創設しました
- 2024年7月、企業の本業による「利益追求」と「社会課題解決」の同時実現を目指す「北九州市サステナブル経営認証制度」を創設しました
2024年度は6事業者、2025年度は4事業者を認証しました



「OECD SDGs北九州レポート」が完成 アジア地域初！「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」

- 本市は、2018年4月に、世界38カ国が加盟する国際機関OECDより、「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として、アジア地域で初めて選定されました
- その後、約2年にわたる、OECDの独自の分析・調査を経て、「OECD SDGs北九州レポート」が完成しています

OECD SDGs北九州 レポート



(英語版)表紙



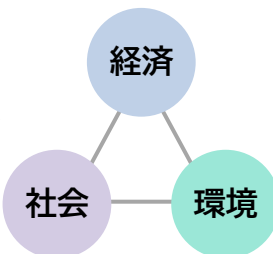
(日本語版)表紙

OECD(経済協力開発機構):世界最大のシンクタンク
OECDが、世界9つのモデル都市の1つに本市を選定し、
アジア唯一の「SDGsレポート」として、世界に発信！

OECDより評価された3つの優良事例

- 国際協力！
- 子ども食堂！
- 洋上風力発電！

SDGsを活用した
相乗効果を創出！



Kitakyushu
SDGs

“国内外”へ向けて
北九州市の
SDGsを発信！



「世界のSDGsモデル都市」に選定
(2018.4 OECDとの共同記者会見)
国連会合でアジア唯一の首長発表！
(2018.7 ニューヨーク国連本部)

期待される効果

ESG投資の呼び込み

SDGsの認知度向上

環境と経済の好循環

SDGs未来基金・サステナビリティボンド

- 2021年4月、SDGsの達成に資する事業を積極的に推進するための安定的な財源として、新たな基金を創設しました
- 2021年10月、SDGs達成に向けた取組を推進するための資金調達の一環として、自治体初となる「サステナビリティボンド」、愛称「北九州市SDGs未来債」を発行しました

SDGs未来基金 2021年4月創設

SDGsの達成に資する事業を積極的に推進するための
安定的な財源として新たな基金を創設



北九州市 SDGs未来債 自治体初

SDGs達成に向けた取組を推進するための資金調達の一環として、自治体初となるサステナビリティボンドを発行

募集した資金は、SDGs関連プロジェクトに活用

洋上風力発電関連事業



新科学館の整備



豪雨災害等の防災対策事業



特別支援学校の整備



“市の持続可能な未来” に繋げていきます

北九州市 サステナビリティボンド (愛称:SDGs未来債) の概要



サステナビリティボンド（北九州市SDGs未来債）

- ・北九州市は、令和3年度に自治体で初めて、サステナビリティボンドを発行
- ・令和7年度は、機関投資家向け100億円（5年・10年）、個人向け15億円（5年）を発行



洋上風力拠点の形成



環境工場の整備



LED照明化工事



保育所の整備



図書館の空調整備



救急車の更新

サステナビリティボンド 発行実績

銘 柄	5年公募公債 (機関投資家向け)	10年公募公債 (機関投資家向け)	5年公募公債 (個人向け)
令和3年度	—	100億円	5億円
令和4年度	—	100億円	10億円
令和5年度	—	100億円	10億円
令和6年度	—	79億円	10億円
令和7年度	66億円	34億円	15億円

令和7年度 サステナビリティボンド 発行概要

- 令和7年度は、北九州市サステナビリティボンド(北九州市SDGs未来債)として、10月に機関投資家向けとして5年債を66億円、10年債を34億円を発行しました
- 個人向け債については、機関投資家向けと同月10月に15億円を発行しました

機関投資家向け

項目	発行概要	
銘柄名称	第1回北九州市 サステナビリティボンド 5年公募公債	第5回北九州市 サステナビリティボンド 10年公募公債
年限	5年(満期一括償還) (償還日 2030年10月29日)	10年(満期一括償還) (償還日 2035年10月29日)
発行額	66億円	34億円
利率	1.305%	1.772%
発行時期	10月29日(水曜日)	
主幹事会社	大和証券株式会社(事務) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 みずほ証券株式会社	
購入対象先	機関投資家	

個人投資家向け

項目	発行概要
銘柄名称	第5回北九州市 サステナビリティボンド 5年公募公債(個人向け)
年限	5年(満期一括償還) (償還日 2030年10月30日)
発行額	15億円
利率	1.357%(税引き前)
発行時期	10月30日(木曜日)
募集期間	10月7日(火曜日)～ 23日(木曜日)
購入限度額	お一人様1,000万円まで (1万円から1万円単位)
購入対象先	(1)北九州市内にお住まいか、お勤めの個人 (2)北九州市内に事業所のある法人・団体 (3)北九州市を応援する個人・法人等

- 機関投資家向けサステナビリティボンドでは、23件の投資家の皆様より発行意義に共感いただき、投資表明を実施いただきました
- 個人投資家向けでは、市内・市外双方の414人・団体の皆様に購入いただきました

機関投資家向け債 投資表明投資家一覧

- | | | |
|--------------------|------------------------|--------------------|
| ● 一般社団法人北九州市立大学後援会 | ● 株式会社日本貿易保険 | ● 全日本自治団体労働組合福岡県本部 |
| ● 宇城市 | ● 株式会社福岡銀行 | ● 千葉県企業局 |
| ● 大竹商工会議所 | ● 公益財団法人自動車リサイクル促進センター | ● 地方独立行政法人芦屋中央病院 |
| ● 学校法人福原学園 | ● 公益財団法人全国市町村研修財団 | ● 東宝住宅株式会社 |
| ● 株式会社小早川 | ● 公益財団法人福岡県看護協会 | ● 独立行政法人環境再生保全機構 |
| ● 株式会社筑邦銀行 | ● 札幌市 | ● 日本地震再保険株式会社 |
| ● 株式会社徳島大正銀行 | ● 水郷つくば農業協同組合 | ● ひびき灘開発株式会社 |
| ● 株式会社西日本シティ銀行 | ● 全国官報販売協同組合 | |

(五十音順)

個人向け債の投資家

- **購入者**: 414人・団体(うち市外在住の本市を応援する個人・法人等: 133人・団体)
- **市外購入者の例**: 過去に北九州市内に在住・勤務していた個人
 - 親族が北九州市内に在住する個人
 - 仕事で北九州市内を来訪する個人

令和7年度
サステナビリティ bonds・フレーム
ワークにもとづく
レポーティング

プロジェクトの評価 及び 選定のプロセス

- 資金使途は本市のSDGs達成に向けた取組を推進するものに充当します。
- 個別事業は、必要に応じて公共事業評価や環境アセスメントなど専門性のある審査を経て、北九州市議会が審議・議決し、予算として計上したもので、この中から財政・変革局財政課及び関係部署で協議して選定、財政・変革局長が最終決定しています。

調達資金の管理

- 調達資金は調達した年度中に対象事業に全額充当します。
- 調達資金は財政・変革局財政課が起債管理システムにおいて、調達した資金毎に、充当した事業を常時追跡・管理するほか、内部監査を通じて残高を確認します。
- 充当されるまでの間は現金または現金同等物にて管理します。充当計画に大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、年次での開示に限らず適時に開示します。

レポーティング

- 資金充当が完了するまでの間、資金充当状況および環境改善効果・社会的成果に関する情報を本市のウェブサイトにて開示します。調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、充当後に充当状況に大きな変化が生じた場合は、速やかに開示します。

令和7年度 資金の充当状況・環境改善効果に係るレポーティング

グリーンプロジェクト

プロジェクト 分類	対象事業	充当金額(百万円)		効果/実施事業内容
		機関投資家分	個人分	
再生可能 エネルギー	■ 響灘地区の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用した、風力発電関連産業の総合拠点の形成	1,164.6	-	■ 響灘東地区SEP船等基地化:整備面積0.25ha(全体1.2ha) ■ 北九州港を母港とするSEP船の数:2隻(R7年度時点)
気候変動 への適応	■ 河川整備	1,470.3	373	■ 橋梁架け替え:2箇所(相割川、割子川) ■ 護岸改修:合計577m(相割川、江川等) ■ 掘削 2,000㎡(紫川IMM)、浚渫 2,300㎡ ■ 水門、井堰などの更新:10施設 ■ 整備により減少する被害戸数: (一例)紫川13,000戸(R24年度完了後の予定数)
	■ 下水道整備 ※持続可能な水資源・廃水管理にも該当	60	-	■ 豪雨対策の拡充・強化(浸水対策工事):1件
	■ 港湾整備	1,427.1	-	■ 胸壁整備:161m、舗装工:448㎡ ■ 整備地区:新門司北地区、整備件数:1件
	■ 道路整備	280.6	6	■ 学校の法面改修工事:4,074㎡(新道寺小学校等)
汚染の防止 及び抑制	■ ごみ処理施設等の整備	733.6	-	■ 新門司工場の基幹的設備改良事業 ■ R12年度リサイクル率32%以上、R12年度CO2排出量60千トン以下を見込む (R7年度時点 26.2%、110千トン(概算値))
生物自然資源及び 土地利用に係る 環境維持型管理	■ 地域固有の生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり(公園整備等)	790.2	-	■ 緑化面積:合計6,087㎡、公園整備面積:合計69,475㎡ ■ 市内の緑に親しむ公的空間の確保量(一人当たりの都市公園面積): 13.29(㎡/人)
グリーン ビルディング	■ 環境性能の高い市有施設の新築・改築	1,488.1	-	■ 門司港地域複合公共施設:ZEB水準に適合 237.3t-CO2/年削減見込み
エネルギー効率	■ 公共施設のエネルギー消費量の削減 (市保有施設の照明のLED化や老朽化施設やエネルギー多消費施設における省エネ機器の採用等)	93.9	-	■ LED化した照明灯数:632個 ■ エネルギー削減量:81.6MWh/年 ■ 温室効果ガス削減量:18.0t-CO2/年削減見込み
合計	金額	7,508.4	379	
	比率	75.1%	25.3%	

令和7年度 資金の充当状況・社会的成果に係るレポーティング

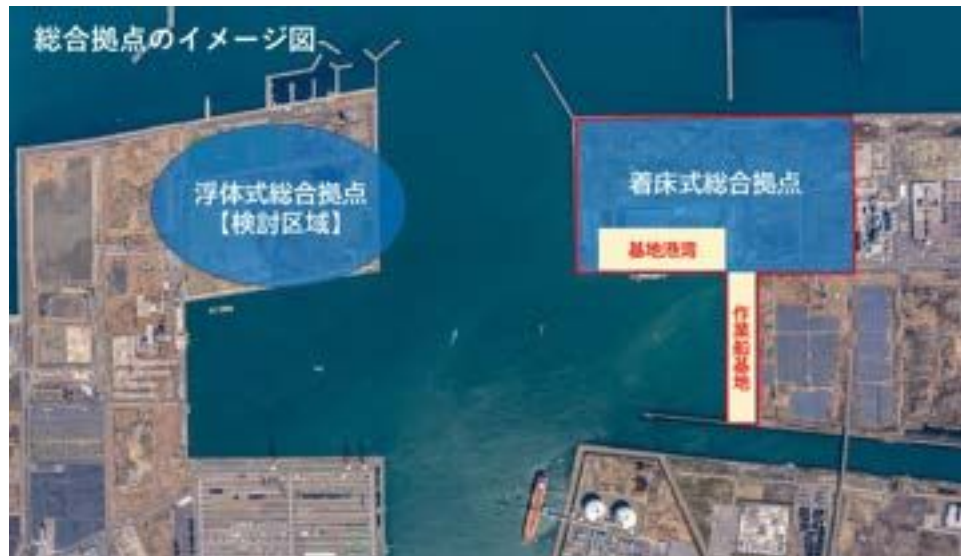
ソーシャルプロジェクト

プロジェクト 分類	対象事業	充当金額(百万円)		効果/実施事業内容		
		機関 投資家分	個人分	アウトプット	アウトカム	(参考) インパクト
必要不可欠な サービスへの アクセス	■ 特別支援学校整備	706	-	■ 小倉北特別支援学校等整備(移転建替)	■ 利用者数合計:321人 (児童生徒数、R8.5.1時点)	誰一人取り残す ことなく未来を 担う人材を 育成する 環境を整備
	■ 総合療育センター 整備	-	19	■ 総合療育センターにて聴覚誘発反応測定装 置などの医療機器4台を更新	■ R7年度 年間施設利用者数 外来 40,187人 入院(入所) 33,021人	
	■ 保育所等整備	78.7	16	■ 老朽化に伴う施設整備・改修:10箇所 ■ 児童館老朽化対策大規模改修工事:2箇所	■ 保育園等 定員数合計 1,110人 ■ 児童館利用者数 合計 28,637人	
	■ 小中学校等整備	1,472.8	114	■ グラウンド改修:小学校3校、中学校1校 ■ 大規模改修:小学校3校 ■ 学校トイレ整備:小学校10校、中学校20校 ■ 不足教室対策 小学校7校、中学校3校	■ 小学校:327人/1校 ■ 中学校:340人/1校 (市内の生徒数/学校数で算出 R8. 5. 1時点)	
	■ 青少年育成・学習施 設等整備	50.1	-	■ 玄海青年の家 給排水設備関係改修工事 高圧受変電設備改修工事	■ 利用者数23,775人(R7年度)	
手ごろな 価格の基本的 インフラ設備	■ 避難場所、消防施設 等の整備・改修 ※ 必要不可欠なサービ スへのアクセスにも 該当	184	972	■ 市民センター(予定避難所)の空調・昇降機等 の整備 ■ 消防施設の車両整備:9件 ■ 消防施設の長寿命化:8件 ■ 消防団施設整備:2件	■ 市民センター総受入人数:5,024 人	防災機能の強化 によるレジリエ ンスな社会
合計	金額	2,491.6	1,121			
	割合	24. 9%	74. 7%			

令和7年度 サステナビリティボンドの資金使途について ①

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
再生可能エネルギー	■ 響灘地区の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用した、風力発電関連産業の総合拠点の形成	■ 温室効果ガスの排出削減

風力発電関連産業の総合拠点化



本市の強み ～西日本で唯一の基地港湾～



- 本市は、若松区響灘地区のポテンシャルを活かし、風力発電関連産業の「総合拠点」の形成に向けた取組を平成23年度から進めています。
- この取組により、響灘洋上ウインドファームで年間約22万kWの電力を生み出すとともに、産業や物流、経済の活性化や雇用の創出も目指しています。
- R7年度は、響灘東地区に入港するSEP船(※)が岸壁を適切に利用できるよう、海底面の調査を行い、必要な整備を実施しました。
※SEP船：自己昇降式作業台船
- 引き続き、他都市に先駆けて風力発電関連産業の総合拠点化に取り組むことにより、再生可能エネルギーの活用による温室効果ガスの排出削減に貢献して参ります。

整備面積(響灘東地区SEP船等基地化事業) 0.25ha(全体1.2ha)

北九州港を母港とするSEP船の数

2隻(R7年度時点)

令和7年度 サステナビリティボンドの資金使途について ②

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
気候変動への適応	■ 河川整備 ■ 下水道整備 ※持続可能な水資源・廃水管理にも該当	■ 水災害など発生時の浸水、土砂被害の緩和 ■ 水災害など発生時における安全・安定的な水道インフラの供給

河川整備

橋梁架け替え(相割川)



橋梁架け替え(割子川)



- 浸水被害の軽減、災害が発生した際の市民の命・生活・財産を守るため、河川整備を進めました。
- 河川整備では、橋梁架け替え、護岸改修、掘削、浚渫などを行いました。

橋梁架け替え	2箇所(割子川、相割川)
護岸改修	577m(相割川、江川など)
掘削	2,000m ³ (紫川MM)
浚渫	2,300m ³
水門、井堰などの改築	10施設

下水道整備

浸水対策整備工事(雨水排水ポンプ他機械設備工事)



- 豪雨による浸水被害を減らし、雨に強い安全なまちづくりを進めるため、下水道整備を進めました。
- 「北九州市上下水道事業基本計画」及び「北九州市上下水道事業中期経営計画」に基づいて、浸水対策工事を行いました。

整備件数	1件(湯川新町四丁目)
------	-------------

令和7年度 サステナビリティボンドの資金使途について ③

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
気候変動への適応	■ 港湾整備 ■ 道路整備	■ 水災害など発生時の浸水、土砂被害の緩和

港湾整備

新門司北地区



- 高潮対策(新門司北地区)等、災害を未然に防止するための工事を行いました。
- 「北九州市地域防災計画」及び「北九州市強靱化地域計画」に基づいて、自然災害時の安全な通行の確保、安全に利用できる水域面積の確保を企図しています。

整備地区	新門司北地区
------	--------

胸壁整備	161m
------	------

舗装工	448㎡
-----	------

道路整備(法面改修)

新道寺小学校(改修前)



(改修後)



- 水災害など発生時に、人工的傾斜面や自然斜面が崩壊・落石しないように、保護・強化・安定化を図るため、法面改修工事を行いました。

法面改修工事

4,074㎡(新道寺小学校等)

令和7年度 サステナビリティボンドの資金使途について ④

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
汚染の防止及び抑制	■ ごみ処理施設等の整備	■ 大気汚染物質の排出削減 ■ 水質汚染物質の排出削減
生物自然資源及び土地利用に係る環境維持型管理	■ 地域固有の生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり（公園整備等）	■ 多種多様な希少生物の生息地の保全

ごみ処理施設等の整備

新門司工場基幹的整備改良事業



溶融炉



- リサイクル率の向上や温室効果ガス削減の取組の一環として老朽化が進んだ施設の整備を進めています。

整備施設	新門司工場
リサイクル率	32%以上(R12年度見込み)
CO2排出量	60千トン以下(R12年度見込み)

地域固有生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり

公園整備



- 大原公園を始めとする公園整備事業を進め、市内の緑に親しむ公的空間の確保(一人当たりの都市公園面積)の向上を見込んでいます。

緑化面積	6,087㎡
公園整備面積	69,475㎡
市内の緑に親しむ公的空間の確保量 (一人当たりの都市公園面積)	13.29(㎡/人)

令和7年度 サステナビリティボンドの資金使途について ⑤

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
グリーンビルディング	■ 環境性能の高い市有施設の新築・改修	■ 環境負荷の低減(温室効果ガス排出削減)
エネルギー効率	■ 公共施設のエネルギー消費量の削減(市保有施設の照明のLED化や老朽化施設やエネルギー多消費施設における省エネ機器の採用等)	■ 温室効果ガスの排出削減 ■ エネルギーの利用削減

環境性能の高い市有施設の新築・改修

門司港地域複合公共施設(完成イメージ)



- 門司港地域複合公共施設整備で脱炭素化を進めています。
- 門司港地域複合公共施設はZEB Ready相当の整備を進めており、環境改善効果としてエネルギー消費削減率50%以上を見込みます。

門司港地域複合公共施設整備	ZEB Readyに適合、 237.3t-CO2/年削減見込み
---------------	------------------------------------

公共施設のエネルギー消費量の削減

LED照明の設置



LED化工事(穴生ドーム)



- 道路照明のLED化や穴生ドーム等の施設のLED化工事など、省エネ性の高い設備に更新することにより電気使用量及びCO2排出量の削減を図りました。

LED化した照明灯数	632個
エネルギー削減量	81.6MWh
温室効果ガス削減量	18.0 t-CO2/年

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	■ 特別支援学校整備 ■ 総合療育センター整備	■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備

特別支援学校整備

小倉北特別支援学校



- 適切な教育環境の確保や狭あい化の解消等の課題解決を図るため、小倉北特別支援学校の移転建替工事を行いました。特別支援教育の充実に今後も注力してまいります。

令和4～5年度 実施設計

令和5～7年度 校舎等建築工事

令和8年4月 供用開始

整備事業

小倉北特別支援学校移転建替工事

利用者数

321人(児童生徒数、R8.5.1時点)

総合療育センター整備

医療機器等の更新



全自動洗浄消毒乾燥装置



ベッドサイドモニター



ハンドヘルドレフケラトメータ

- 総合療育センターは障害のある方の医療・療育(リハビリテーション)のための施設です。
- 老朽化した各種医療機器等を更新することで、より安心した医療を提供できるようになりました。
- 施設整備や医療機器等の整備により、利用者の増加や医療・福祉ニーズの多様化に対応できるよう機能強化を進めています。

総合療育センター

聴覚誘発反応測定装置、
ハンドヘルドレフケラトメータなど4台更新

令和7年度 サステナビリティボンドの資金使途について ⑦

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	■ 保育所等整備 ■ 小中学校等整備	■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備

保育所等整備(保育所、児童館)

白銀保育所



北方児童館



香月児童館



- 保育所の老朽化に伴う施設整備・改修を10箇所、児童館老朽化対策大規模改修工事を2箇所実施しました。
- また、児童養護施設双葉学園の改築工事を実施しました。

老朽化に伴う施設整備・改修 おぐまの保育所、古前保育所、白銀保育所など	対象施設: 8箇所 定員数: 860人
老朽化に伴う大規模改修・外壁改修 東篠崎保育所及び若松コスモス保育所	対象施設: 2箇所 定員数: 250人
児童館老朽化対策大規模改修 香月児童館、北方児童館	対象施設: 2箇所 利用者数: 28,637人 (R7年度)

小中学校等整備

グラウンド改修工事(清水小学校)



特別支援環境整備



- 包括的で安全な学習環境を確保するため、学校施設の改修工事や整備を実施しました。

グラウンド改修	小学校3校、中学校1校
大規模改修	小学校3校
学校トイレ整備	小学校10校、中学校20校
不足教室対策	小学校7校、中学校3校
特別支援環境整備	小学校23校、中学校15校
消防設備整備	小学校11校、中学校8校、特別支援学校1校
利用者数	小学校: 327人/1校、中学校: 340人/1校 (市内の生徒数/学校数で算出、R 8. 5. 1時点)

令和7年度 サステナビリティボンドの資金使途について ⑧

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	■ 青少年育成・学習施設等整備	■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備
手ごろな価格の基本的インフラ設備	■ 避難場所、消防施設等の整備・改修 ※必要不可欠なサービスへのアクセスにも該当	■ 防災機能の強化等

青少年育成・学習施設等整備

玄海青年の家



- 「玄海青年の家」の老朽化した箇所の改修工事を実施することにより、社会教育施設としての役割の強化を進めました。

玄海青年の家
高圧受変電設備改修工事
給排水設備関係改修工事

利用者数:23,775人
(R7年度)

避難場所・消防施設等の整備・改修

救急車・地震車の車両整備



- 予定避難所としての市民センターにおいて、空調更新、外壁改修等の整備を行いました。今後も一般の市民および災害等発生時の被災者を対象とする基本的インフラ整備を推進してまいります。
- 円滑な災害対応力を維持するため、救急車、地震体験車の更新や老朽化した消防施設の改修工事を実施しました。

市民センター(予定避難所)の整備	総受入人数:5,024人
消防施設の車両整備	9件
消防施設の長寿命化	8件
消防団施設整備	2件



本資料に関するお問い合わせ先

北九州市財政・変革局財務部財政課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号

TEL: 093-582-2003

FAX: 093-582-2070

E-mail: zai-zaisei@city.kitakyushu.lg.jp
